

認知症への不安

11月に「孤立する認知症高齢者」をテーマにしたテレビ番組が放送されました。それは3名の認知症症例について追っていくドキュメント形式でした。見る人により感想はそれぞれだと思いますが、私は、いくらテレビとはいえその3人のことが全くの他人事のように思えませんでした。

真剣に「その症例についてどうすればいいだろう」と考えたり、「家族が認知症になったら…」「自分が認知症になった側だったら…」など、考えることがとても多かったです。

認知症については、医師としても学ぶことがたく

さんあり、薬物療法以外のこともとても大事だと感じています。三つ葉の医局内でも認知症の勉強会は何回も行ってきます。そこで用いた、認知症の高齢者への具体的な接し方についての患者さん向けパンフレットには、認知症で問題行動を起こす心の内訳が分かりやすく書いてあります。認知症の方に対してどう接したらいいか分からない人、困っている人にも役に立つと思います。



これからもテレビや新聞などで認知症がテーマになることが多々あるかと思えます。それを見たり読んだりして不安に思ったり質問したいことがありましたら、診療の際にどんどん聞いてください。一緒に話し合ってみましょう。(藤川・医師)

● 掲示板 ●

● 認知症のパンフレット

上記で紹介した認知症のパンフレットを、ご希望の方に差し上げます。担当医にお申し出ください。



◀「認知症のお年寄りへの対応」
(エーザイ株式会社 編)

● 年未年始について

12月28日(土)～1月5日(日)まで、クリニックはお休みをいただきます。24時間緊急電話は受け付けており、待機医師へ直通となります。患者さんの状態が悪くなったときには、遠慮なくご連絡ください。

皆さんが無事に新しい年を迎えられますように…。



三つ葉のスタッフ紹介

こんにちは！ドライバーの永井です。往診車を運転して、医師を患者さん宅から患者さん宅へ、安全・迅速・確実に、送り届ける仕事です。入社して約1年、ようやく仕事に慣れてきた感じがします。



直接患者さんにお会いすることはありませんが、車に戻ってきた医師の様子や、お見送りに出てこられるご家族との接点のなかで、在宅療養とについていろいろ考えます。

私は現在60歳代。これから先について、以前は漠然とした知識しかありませんでしたが、病気のことや過ごし方など、具体的なイメージを持てるようになりました。

医療法人 三つ葉

三つ葉在宅クリニック

〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12

御器所ステーションビル 3F

TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282

URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>

三つ葉しんぶん係メールアドレス

tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp



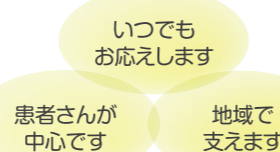
■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
安心して暮らせる社会を創造する



三つ葉在宅クリニック

■ 安心を支えるために…



三つ葉しんぶん 29



2013年12月号

「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

今月の一枚 ～まわりの励ましが支え～

馬上フサさんは99歳になられたばかり。心不全などの病気がありますが、まだまだお元気です。娘さん(左)と同居され、近くに住む息子さん夫妻(写真右がお嫁様)と4人で、県内に住む別の息子さん家族の家や、食事などによく出かけるそうです。車に車椅子を積んで、支え合っのお出かけです。

息子さんは言われます。

「100歳近くまでくると、あとはまわりのみんなの励まし一本で生きている。好奇心を持ち続けられるよう、みんなで励ますことが大事だと思うのです。身づくろいをきちんとして、みんなで出かけることを大切にしています。」

調子が悪いからと、すぐに入院することに以前から疑問を感じていました。しかし在宅医療に出合っ、こうして一緒に過ごせることで母も元気でいられるように思います。いつも来てくださる先生をはじめ、皆さんに大変良くしていただいて、先生が来



る日は不思議と元気なんです。感謝の気持ちでいっぱいです」

その言葉通り、この日もフサさんはきれいにお化粧をされてお食事に出かける場所でした。好きな食べ物は「お肉」だそうです。長寿の秘訣ですね。

声

患者さんにご家族からのお便り



お互いに頑張りましょう！

「三つ葉しんぶん」11月号で飯田さんの記事を拝見し、奥様の介護を想像して頭が下がりました。私も主人を8年間介護してまいりました。奥様、お互いに頑張りましょう！



温かいお便り、受け取りました。

二年前に主人の米寿祝いにプレゼントされた歌「あなたと歩いたこの道を／明日もまた一緒に／幸せ紡いだこの年月を／明日もまた二人で」をいつも胸に「あなた、今どう？」「お父さん、もういいの。言葉は返ってこなくても、通じ合えること。私の傍らに居てくれること」とつぶやいています。

皆々様に支えられ、この道が続く限り、大切に重ねてまいりたいと思っています。

いつの日かお目もじの日がありますように、ご主人様、お大事にお過ごしくださいませ。



10月号で紹介した杉山正行さんの奥様から、11月号で紹介した飯田浩さんの奥様へのメッセージをいただきました。それに対し、飯田さんから杉山さんへお返事が寄せられました。

こんなふうに「三つ葉しんぶん」でご家族どうしが交流していただけて、大変嬉しく思います！

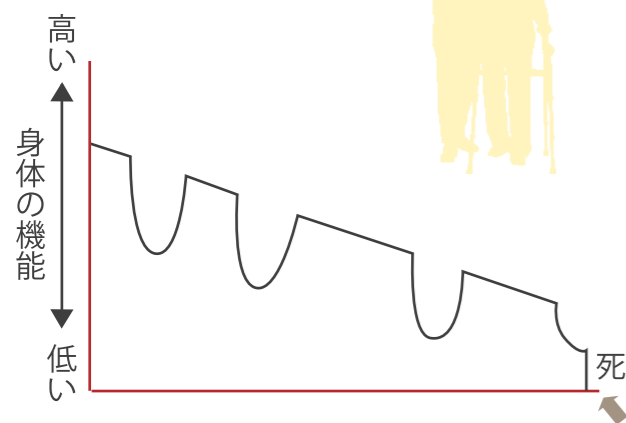
病気によって異なる終末期 終末期を考える②

終末期のケアというと、がん患者さんの痛みを取り除く「緩和ケア」のイメージが強いかもしれませんが、本来は病気の種類にかかわらず、すべての患者さんが対象となり得ます。どのような病気であっても、身体的な苦痛にとどまらず、精神面や介護に関する苦痛などもやわらげ、最期までその人らしく過ごせることをめざします。

終末期に身体の機能が低下していく経過と時間には病気によって特徴があるため、それぞれの病状や経過にあわせて、ご家族や地域の方々と相談しながら一緒に考えていきます。

今月は、終末期の主な3つの傾向とそれに対するケアについて紹介します。

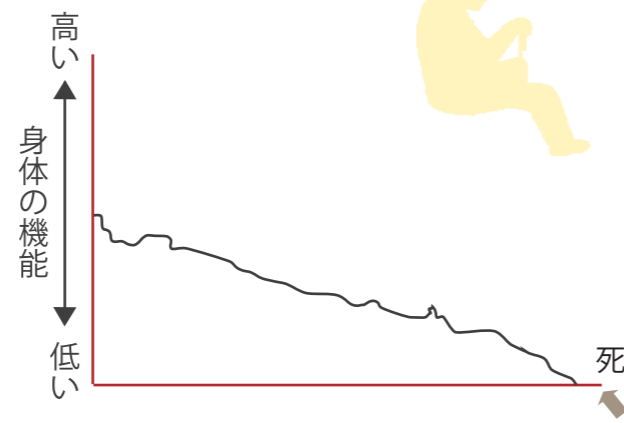
心・肺疾患の末期



脳卒中や心不全、あるいは呼吸不全といった疾患では、発作などにより急に悪くなったり良くなったりを繰り返しながら、数年かけて徐々に身体の機能が低下します。その段階ではリハビリテーションなどによってある程度の機能回復も可能です。できるだけ身体の機能が保てるよう、お手伝いします。

最期は、再発時の発作などで比較的急激に変化するので、医師・看護師による医療的な関わりが重要な役割を担います。そのため、病院とも密に連携しながら支えています。

認知症や老衰など

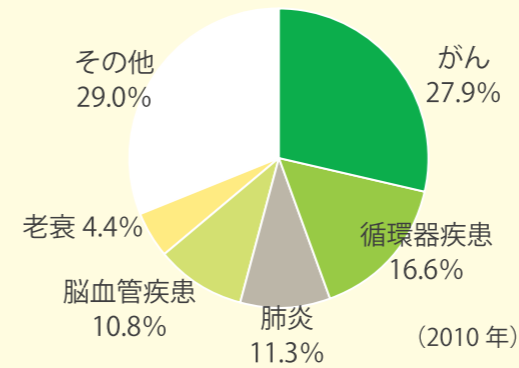


認知症やパーキンソン病などの神経難病、老衰では、身体機能は長期間にゆっくりと低下していきます。その間に感染症や骨折などの事象が起こると状態が変化しやすいです。

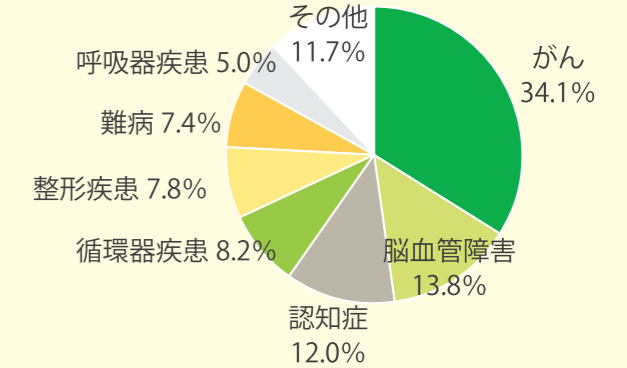
期間が長いことで、ご家族の介護負担が大きな問題となるため、ケアマネジャーなど介護スタッフと協力して支えます。食べられない、飲み込めない、便が出ない、じょくそうなど、慢性期のいろいろな問題に対し、状況に合わせて対応しています。

最期は比較的穏やかに迎えることが多いです。

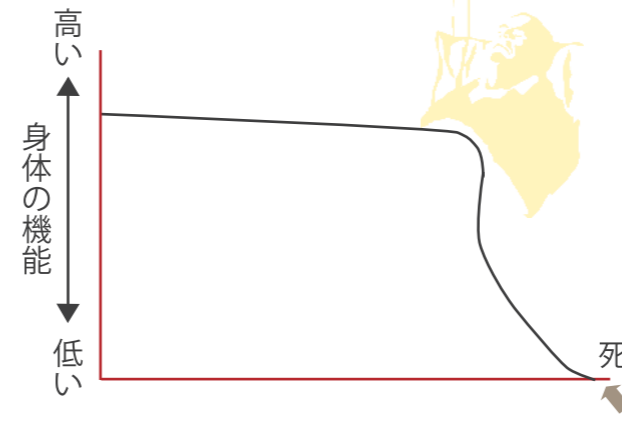
●日本人の死亡原因（65歳以上）



●三つ葉の患者さんの疾患



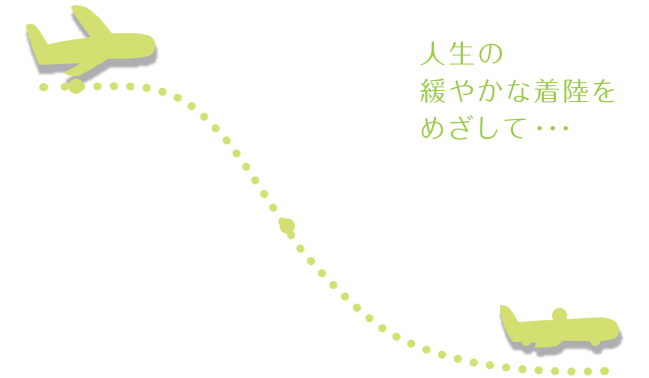
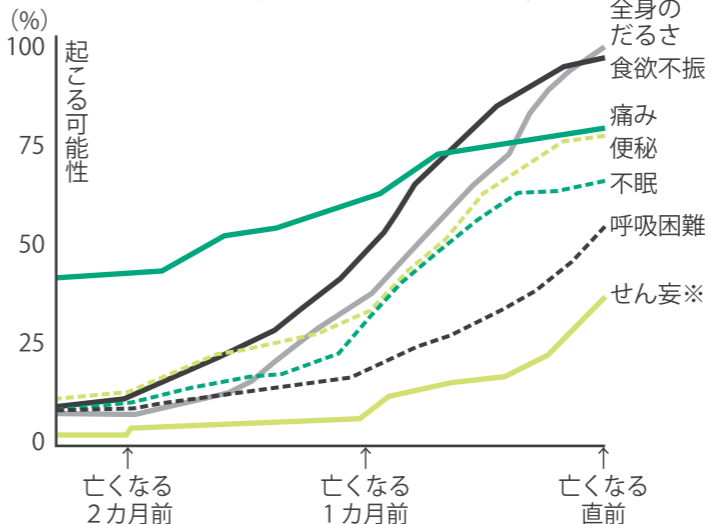
がん



がんの患者さんは、亡くなる2～3カ月くらい前までは、目立った身体機能の低下は見られず、自分のことは自分でできます。しかし最期のときが近づくと大きく機能が低下し始めます。

まずは「がん性疼痛」といわれる痛みや、下図のようなさまざまな症状による苦痛を、しっかり取り除くようにします。

●亡くなるまでに起こるいろいろな症状



また、最期は比較的短い期間で変化するため、ご本人とご家族にとって、「死」をどう受け入れられるかが大きな課題となります。患者さんとご家族の精神面でも支えるケアを行っています。

Q 薬が飲めなくなっても、がんの痛みはとれますか？

A 痛み止めのお薬には、内服薬のほか、貼り薬や座薬、点滴タイプのものもあります。食べたり飲んだりできなくなっても、苦痛は取り除くことができます。

Q せん妄とは？

A 生理的な変化などによって一時的に脳がうまくはたらかなくなり、興奮したり、つじつまの合わないことを言ったりする状態です。“精神的におかしくなった”ではありません。

興奮が激しいときには、お薬を使って休んでいただくことができるので、見守ってあげてください。

●訪問回数について

多くの患者さんには、基本的に月2回の定期訪問を行い、発熱など一時的な変化に対して緊急往診を行っています。しかし、状態が悪くなってきた場合には、毎週あるいは週に複数回の定期訪問も行います。

最期のときが近づいたと医学的に判断できるとき、患者さんとご家族が準備できるよう、これから起こり得る可能性の高い出来事についてお話しします。

